

視察報告

茅野市こども館



市民参加でつくった「こども館」

茅野市は平成8年からすすめてきた「パートナーシップのまちづくり」基本条例に基づき、市民参加で「どんぐりプラン（茅野市こども・家庭応援計画）」をつくり上げました。

茅野市こども館は、茅野駅前にあったデパート撤退後の建物を利用してできたものです。2階の一部と3階の半分及び屋上をこども館として使い、その他には茅野市市民課「ベルデオ店」（支所の機能をもっていますが、お店屋さんの雰囲気でした）や結婚式場や喫茶店・衣料品などのお店が入っていて、駅周辺開発としても参考になるものでした。

0123広場・0123おひさま広場

0歳から3歳までのこどもたちがお母さん達と一緒に遊びにくるこども館で、私たちが視察に行ったときも、大勢の親子が楽しく遊んでいました。

床は素足が基本で、安全で衛生的、子供がなめても大丈夫な塗料が使われているとのこと。このような子育て支援の施設としてはとにかく広くて、すべてがオープンであるため、どこからでも目が届くように配慮されています。

また市民参加で作っただけあり、各所に利用者でないといけないような配慮がされていました。た



例えば、コインロッカーが入り口に備え付けられていること、また、はいはいやよちよち歩きのこどもたちを安心して見守りながら、親同士でおしゃべりできる空間。中央に絵本コーナー、お昼寝コーナーなどをもってきて、食事ができるコーナーにはキッチンもあり、温かいお湯が用意されています。

さらに4階の屋上には「0123おひさま広場」があり、0歳から3歳を中心とした子どもたちがおひさまのもとで遊べるようになっています。トンネルのぬけたお山やベンチがあり、すのこの引かれたオープンスペースには水遊びのできる遊具もそろっています。



例えば、コインロッカーが入り口に備え付けられていること、また、はいはいやよちよち歩きのこどもたちを安心して見守り

CHUKOらんど千/千/



ここは中高生のための施設で、中高生だけで検討し市長に提言をおこなったところです。その後運営委員会に変更し、中高生たち自身で運営しています。指導員が3名配置されていました。

多目的広場、一面鏡張りのダンス教室、ドラムセットなどがありバンドの練習や演奏の編集もできる音楽室(2室)、学習室、食堂・キッチン、シャワー室、木工クラフトや洋裁などができるクラフト室がそろっていました。試験前は学習室が大賑わい、ダンスとバンドは夜21時まで使用できます。

茅野市の子育て支援活動は、0歳から18歳までを視野におきながら、単なる少子化対策ではなく「たくましく、優しい、こどもになって欲しい」という願いのもと、不登校やいじめ、虐待といった問題に「0歳から見通した支援が必要」と、教育・福祉を統合して長年検討されてきた結果できあがってきたものです。

近年は茅野市にわざわざ引越してこくる人も多く、こどもの数も増えて活力ある町になっています。まさに、子育て支援策が活力ある街づくりであることを証明したような町でした。